“あおい環”経済戦略ビジョン～しあわせ倍増プラン～

施　策　のポイント

足もとの地域資源（歴史、文化、自然、あるいは伝統芸能など）を洗い出し、これらを有効活用する内発型地域産業に着目し、それぞれの産業の持つ特性を相乗させた第６次産業の創出に取り組む。

【施策の概要】

1 本プロジェクト事業の意味

本プロジェクト事業は、佐井村第４次長期総合計画（平成 23 年 3 月策定）第 3 部　基本計画、第 5 章　重点戦略プロジェクトに掲げられる事業、「“あおい環”経済戦略ビジョン～しあわせ倍増プラン～」に基づくものであり、事業の趣旨や概念については、総合計画に示しているとおりであるので、基本的に省略する。

本ビジョンにおける「あおい環」の「あおい」は、本村の「強み・強い分野」を象徴するものであり、一義的には本村の漁村・水産業資源を指すが、海山・美しい風景などの自然資源までを含む幅広い意味も持たせている。「環」は、「輪のような形をした宝石、囲む、とりまく、まわる」などを意味する言葉で、本村の宝である「あおい」を軸にした経済循環を表している。

2 取り組みに至る背景・目的

本村は、長い海岸線に点在する各集落が、それぞれの特徴を活かしながら、豊富な水産物による恩恵を受け、産業を発展させてきた。また、水産業に関わるさまざまな技術や日々の暮らしの中で培われた生活文化の蓄積もある。これらこそ、本村の「強み・強い分野」にほかならない。

しかし、近年は、漁獲量の減少や魚価の低迷、さらには後継者不足等もあり、このような漁村を巡る環境は厳しくなっている。

一方、観光面に目を向けると、国の史跡名勝にも指定されている「仏ヶ浦」があり、個人・団体を含め、毎年多くの観光客が訪れている。

しかし、多くの観光客が訪れる割には、村に落ちるお金は昼食やちょっとしたお土産等に限られており、幅広いすそ野を持つ観光分野としては、観光資源を最大限活用しているとは言い難い状況にある。

本村においては、漁村・水産業を復活させ経済の背骨に据えるとともに、水産業と観光産業を中心とした第二、第三次産業との間で、村の経済が効果的に循環する構造を造ることこそが、これからの本村が進むべき道と思われる。

第４次長期総合計画に掲げる「あおい環」経済戦略ビジョンは、このような取組を通じて、村民所得を増やし、暮らし、地域社会、さらには美しい漁村風景づくり等にまでその効果を波及させ、かつての心豊かな暮らし文化を復活させようとするものである。

観光のもともとの意味は、「国の光を観る」ということである。治世者が領地の人々の暮らしぶりをよく見ながらよい政治を行い、人々がいきいきと暮らすことができれば、他国に「光を示す」ことができる。

すなわち観光の原点は、「人々の暮らしを見る」とともに、その地域に住む人々が「自ら光を示す」ことである。

我が国が失いつつある村・水産業資源を基盤にした暮らし文化を再構築し、自然との共生の中で育まれたそのありのままの暮らしぶりを「光」として外に向かって示すことこそが、“あおい環”経済戦略の確立につながるものである。

❸ 取り組むべく事業内容　－〔戦略〕の設定－

次の２つの戦略を水産業、観光・交流等のプロジェクトとして全面展開し、目標である「村民所得の向上」の実現を目指す。

(1) 知価戦略　－知恵を「出す」・「集める」・「使う」－

知恵の価値がますます高まっている。漁村・水産業資源を背骨にした経済循環を取り戻すために、内外の知恵を結集する。知恵を使うことで、新たな付加価値を生み出す。

◆　近年、生産者の顔が見える安心、安全な「食」を求める人々が増えており、このような消費者を満足させる漁業を確立すれば活路が開ける。また、関心は加工食品にも向いており、本村の暮らしの中で培われた食品加工技術を活かし、本物志向の期待に応える加工食品を作ることも有望なビジネスとなる。

◆　本村には水産資源に限らず、恵まれた自然の中で育つ山菜等が豊富にあり、これを**ツマモノビジネスとして起業**することで、村民が主役の（村民が儲ける）新たな農林業を展開していく可能性を秘めている。

※注）ツマモノビジネス

→　ツマモノとは、葉類（紅葉、柿、南天等）や花類（梅・桜桃等）、笹葉で

作る器や箸置き、ユキノシタや葉わさびなど食用の山野草、プリムラや金魚草などの食用花、松葉や稲穂などで作った祝膳用の飾り物などのことで、徳島県勝浦郡上勝町で「いろどり事業」を町の産業として確立したことが有名であり、現在では、年間販売額２億円を超え、同町ではツマモノを「彩（いろどり）」というブランドで出荷している。

(2) 感動戦略　－暮らし文化の光を示す－

感動こそが人を動かす原動力である。かつてのふるさとには、「自然と共生するつくりものでない日々の営み」があり、その中で人々は輝き、その暮らしぶりは文化そのものであった。

今、来訪者へ多くの感動と癒しを与える「光」を取り戻し、示す。

◆　本村は、かつて漁村・水産業を基盤とした暮らし文化、美しい漁村風景等の「光」を持っていた。美しい自然の中での、伝統的生活文化に彩られた安定した暮らしは、多くの人々の羨望となる。そうした所へ、訪れたい、住みたいと思う人は今後ますます増加するであろう。各種団体（漁業協同組合、商工会、観光協会など）、テーマ・コミュニティ、若者・女性起業家、Ｉターン・Ｕターン者など多様な主体を総動員し、**漁業体験、漁家民泊や漁村レストランの起業**など、村民が主役の（村民が儲ける）観光型コミュニティビジネスの展開をしていく必要がある。

4 戦略に基づく具体的プロジェクト　－〔戦術〕の策定－

上記２つの戦略に基づき、水産業、観光・交流等各分野において個別プロジェクトを重層的に展開し、目標である「村民所得の向上」の実現を目指す。

(1) 知価戦略　－漁業自立振興プロジェクト－

“漁業による定住社会の復活”を目標として、漁業に関わる人・物・知恵を含めたすべての資源や力を活用するとともに、幅広い連携と協働によって、継続的・安定的な収入を得ることのできる漁業の再構築に取り組む。

◆　プロジェクト導入に向けて検討すべき６つの施策

■担い手確保・育成事業

漁村地域のリーダーとなる漁業士の活動支援及び後継者育成並びに水産少年教室の開催などにより、担い手の確保・育成に取り組む。

１．佐井村漁師縁組事業の実施

２．活〆神経抜き技術継承者の育成

■販売システムの確立

水産物市場の確保・拡大と流通機能の強化を図るため、関係機関等の効果的活用な産品を集め・売るシステムを検討するとともに、インターネット販売、直売所や青空市場・アンテナショップでの直接販売を検討する。

１．あおい環オンラインショップの運営
２．活〆神経抜き鮮魚出荷を主体とした事業体の創設
３．活〆神経抜き鮮魚の販路拡大

■食漁モデル事業

地産地消を推進するため、地域の子ども達に「漁業・食」への関心・理解を深めてもらうため、村内の小中学校を対象に、食漁教育に関する取り組みの導入を検討する。

また、住民を対象とした食育・食漁に関するイベント等の開催にも取り組む。

■新たな産業への展開

漁業体験メニューを取り入れ、漁業との共存を図った漁業観光などの新たなビジネスの創出に取り組む。

■ツマモノビジネスの展開

恵まれた自然の中で育つ豊富な山菜資源等を活用した起業を支援する。

■地域産物のブランド化事業

消費者ニーズや市場原理に対応できる安全で安心、品質良い優良な水産物の生産振興に努め、自然風土や海づくり、栽培・飼育の技術など、本村固有の生産条件や過程を特化し、地域産物のブランド化に取り組む。

１．新たな特産品の開発
２．既存商品の販路開拓

(2) 感動戦略　－観光振興・定住促進プロジェクト－

美しい自然に囲まれ、生活文化に彩られた暮らしは、人々の羨望意識を刺激し、今後も、その地を訪れたい、その地に暮らしたいと思う人の増加が見込まれることから、本プロジェクトを設定し、現状と課題、その要因を詳細に分析する中で、産業として成立する観光事業、さらには定住人口の増加に取り組む。

◆　プロジェクト導入に向けて検討すべき４つの施策

■住民の起業（スモールビジネス）を支援

　既に起業している人やこれから起業しようとする人について、様々な施策で、住民が「儲ける」（スモールビジネス）仕組みを支援する。

１．漁村の暮らしを活用した起業支援

２．まちなかの空き店舗を活用した起業等への支援

■儲ける観光のプロデュース

　住民が「儲ける」仕組みをさらにパワーアップさせるため、新たなプログラムをスタートさせる。

１．彩まち歩きガイド（案内人）の運営

２．観光による地域滞在プログラムの運営

■情報発信と交流

　住民が「儲ける」（スモールビジネス）仕組みを情報発信し、効果の波及を図る。

１．情報発信交流事業

２．佐井の食を楽しみ起業に学ぶ会

■儲ける観光の舞台づくり

佐井村体験型観光ツアーの継続的な運営を図る。

１．漁村体験ツアー

２．夕陽ツアー

３．祭り体験ツアー

5　事業推進方策

　本ビジョンに示された方針に基づき、庁内関係部署と連携を図りながら、できるところからスタートする。

　事業を進めるにあたっては、地域住民の参画を促し、住民の力を活かすプロジェクトにする。

　本ビジョンは、完成品ではなく、あくまでも、現時点において実現を目指している社会・経済像、そのための方向性、戦略等を述べたものである。よって、今後の進捗状況に合わせ、見直し、軌道修正等の改良・充実等を行い、進化し続けるビジョンとする。

『あおい環』経済戦略ビジョン概念図

【現状】
・佐井村の経済全体が縮小傾向にある。
・これまでのような全国一律の経済成長は期待できない。
・佐井村の「強み・強い分野」を活かした経済への転換が必要な時期を迎えている。
・佐井村の「強み・強い分野」は、漁村・農林水産業資源である。

【あおい環】とは

『あおい』は、本村の「強み・強い分野」を象徴するものであり、一義的には本村の漁村・水産業資源を指すが、海山・美しい風景などの自然資源までを含む幅広い意味も持たせている。「環」は、「輪のような形をした宝石、囲む、とりまく、まわる」などを意味する言葉で、本村の宝である「あおい」を軸にした経済循環を表している。

【本村本来の姿】

50 年前のふるさとのたたずまい、その中で営まれていた人々の暮らしぶり

〔理念〕

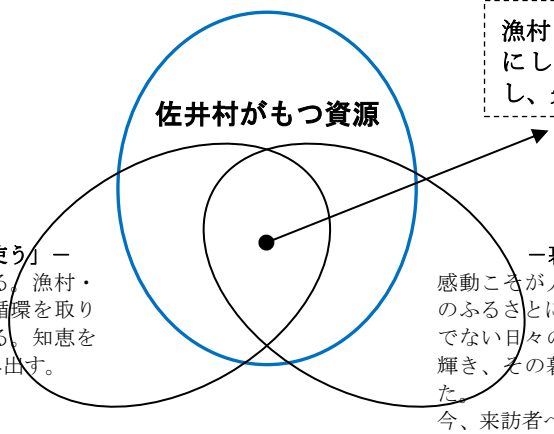
失ったものを取り戻すことで地域の経済が発展する仕組みを創る

［キャッチフレーズ］

『あおい環』がつくる、幸せ倍増プラン

［目標］

村民所得１０％アップ



漁村・農林水産業資源を背景にした域内経済循環をおこし、失ったものを取り戻す。

知価戦略

－知恵を「出す」・「集める」・「使う」－

知恵の価値がますます高まっている。漁村・農林水産業資源を背景にした経済循環を取り戻すために、内外の知恵を結集する。知恵を使うことで、新たな付加価値を生み出す。

感動戦略

－暮らし文化の光を示す－

感動こそが人を動かす原動力である。かつてのふるさとには、「自然と共生するつくりものでない日々の営み」があり、その中で人々は輝き、その暮らしぶりは文化そのものであった。

今、来訪者へ多くの感動と癒しを与える「光」を取り戻し、示す。

暮らし文化の輝き

安定した家計、心豊かな暮らし、地域社会の支え合い、美しい漁村景観

共 生 の 定 住 社 会 の 実 現